

パルシステム生産者・消費者協議会

# 第26回 通常総会

《次第》

1. 開会の辞

2. 代表幹事挨拶

3. 来賓挨拶

4. 議長選出

5. 書記任命・議事録署名人選出

6. 議案審議

第1号議案 2014年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件

第2号議案 2015年度活動方針並びに予算案承認の件

第3号議案 役員改選の件

第4号議案 議案効力発生の件

7. 議長解任

8. 閉会の辞

## もくじ

第 1 号議案	2014 年度活動報告並びに 決算報告・監査報告承認の件-----	1
第 2 号議案	2015 年度活動方針並びに 予算案承認の件-----	9
第 3 号議案	役員改選の件-----	11
第 4 号議案	議案効力発生の件-----	13
【資料】	-----	14
【規約】	-----	25
【代議員名簿】	-----	30

## 第1号議案

### 2014年度活動のまとめ並びに決算・監査報告承認の件

#### 《2014年度の振り返り》

2014年の日本国内における最も大きな出来事として経済環境の変化があると思われます。桜散る4月に5%から8%に増税された消費税。この春からの消費増税における政府と国民における感覚的、現実的な乖離は誰もが感じるものとなっているのではないのでしょうか。刻々と進んだ円安による物価上昇は消費者の生活を締め付ける形となり消費増税との二重奏を奏でました。昨年11月に発表された7～9月期の実質GDP成長率は年率で1.6%減のマイナス成長となり、春の消費増税後の景気低迷が鮮明になったと思われます。国民にとっては増税や物価上昇の影響で実質的な所得が目減りした結果、消費へのモチベーションは低迷が続いたという実感が強く残った1年でした。政府は再増税の先送りとして2017年4月に向けた消費税の10%アップを打ち出し衆院解散を実施しました。

発生した自然災害も産地を含む国内に爪あとを残しています。御嶽山の噴火により多くの被害者が出たことも記憶に新しいですが、大型台風や集中豪雨による被害も各地で発生しました。7月の台風では九州・四国に打撃を与え更には北海道や東北への被害ももたらしました。8月の広島土砂崩災害では多くの人命が失われています。ますます予測できない自然災害に全国の産地も対処方法に苦慮しています。

しかしながら、この環境下であっても生産者・消費者協議会として出きることを見極めつつ前進する動きを止める事なくしたいと強く実感します。

2014年度のパルシステム生産者・消費者協議会は団体の名が示すとおり生産者と消費者の繋がりを今まで以上に深める為の努力をしてきました。合わせて産直の原点を学ぶという姿勢に務めてきました。

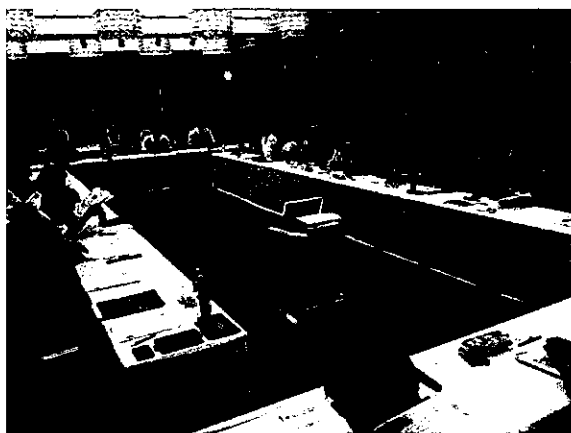
一昨年に実施した生産者幹事の増員の体制も定着し、5つの部会から生産者幹事の活躍、各部会長の積極的なリードによる部会活動の推進、生産者運営委員会における運営方法の模索と改善などを進めてきました。更には継続した活動として定着した複数部会の協同事業として青果フォーラムが行なわれ、青年農業者交流会、女性生産者交流会も開催する事が出来ました。

エコチャレンジ基準制定に伴う産地による学習会開催を通じそれぞれの課題を明確にし行動に結び付けてきました。昨年の農法研究会でも主なテーマとして掲げた品質向上の取組みも継続し、消費者運営委員会においては年間活動プログラムとして位置付け計画的な学習とアクションに取り組みました。

2014年度の振り返りを着実にを行い、そこから見えるものを考慮し2015年度の方針案に繋げていくこととします。

## 《重点方針と具体的施策》

- I 生産者と消費者の繋がりを更に深め産直の原点を学びなおします。日本農業の発展へ貢献する取組みを行います。
- ① 食料自給力向上の取組みを実践します。「産直」を旗印に国内農業の必要性が伝わる形で活動を展開し学習会、講演会を実施します。
    - 「産直連続講座」を継続し会員生協との連携で5つの生産部門で構成し9会員生協で33回開催し745人（2015年1月末現在）の参加がありました。生消協の産直産地の取組みと国産生産物、国産原料の美味しさの実態を伝えることを継続しました。
  - ② TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）反対を貫きます。TPPの内容を伝える学習会、宣伝活動を計画的に実施します。
    - 各産地にてTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に対する学習を進め、反対の姿勢を継続してきました。
  - ③ 産直で生産される農畜産物の価値とその背景を理解できる学習を進めます。地域や里山、農村環境、生物多様性、そして生産者、消費者、流通などそれぞれの視点が共有出来る内容とします。
    - 3年目を迎えた青果フォーラムでは、初心に戻り生産者・消費者協議会の存在意義を振り返る事にも力点をおきました。生消協という組織でしか実現できない価値を見つめ直し様々な活動に真摯に取り組む事を議論しました。生産や流通、そして消費者から信頼を得るために必要な事を確認するフォーラムとなりました。
    - 部会活動の1つとして産直米を広く理解してもらえよう連合会で働く役職員を対象にした企画の継続も行いました。食べて、交流して、産直米を消費地圏で体感する企画として評価を得ています。
    - 青年農業者交流会において海外から輸入する食品と国内で生産される食品との違いを生産者自らが学び体験する場作りを行いました。輸入食品保管現場をその眼で確認する事で自分達の生産する農畜産物の安全性と優位性を再認識し全国の生産者で今後の取組みへの議論も行いました。



- ④ 飼料における自給力向上の取組みを行います。生消協の米産地と畜産産地が連携できる仕組み作りを考えます。飼料米を中心に流通システム研究を推進します。
  - 異業種における産直産地同士の繋がりを「飼料用米」というキーワードで直接結ぶことを実現できました。
  - パルシステムの事業計画と連携し生消協産地にて地域と連動した計画的な飼料用米生産と畜産飼料への使用を具体的に進める活動を継続しています。
- ⑤ 6次産業化の取組みを学びながら、産直原料を使用した商品開発へ協力します。
  - パルシステムとの協力で北海道、九州を中心にして「産地」「メーカー」の繋がりを広めています。産直原料を使用した開発・改善を推進し2014年末現在リニューアルが3品目、新たに誕生した商品が9品目となっています。

## II 環境保全型農業を推進し産直の取組みが内外に伝わる形を作ります。

- ① 農薬削減プログラム改定に伴い、農薬の総量削減に取組み、環境負荷を低減させる取組みを実践します。その技術を会員産地全体で共有し、産地全体の活動を向上させます。同時に消費者とも意義と価値を共有します。
  - ジーピーエスとの協力体制を敷き、全国の産地にて課題整理を進めました。特に野菜産地において生産者自身が課題を出し合う場を積極的に作り自身の課題として捉え行動に繋げてきました。
  - 青果フォーラムにおいて具体的な実践紹介などを行い生消協としての取組として位置付け課題共有を進めました。



- ② 産直の基本と考える土作りに取組み、より美味しい作物を作ります。その為に調査・研究活動を行います。
  - 関東近郊10産地で、各産地主要作物を3品程度絞込み「土壌分析」+「商品分析」+「微生物分析」の3つをセットで行い、土壌の状況と美味しさについてのクロス比較実験を実施しました。まだ分析データが少なく、指標作

りにまで行きませんでした。糖度が高いとビタミンCが高い、逆に硝酸イオンが低いなどの傾向も判りました。

- ③ 日本型畜産の研究理解をすすめます。資源循環型となる畜産技術を事例共有し拡大に繋がります。
  - 畜産産地の取組みを通じ飼料用米における苗からの育成、直播きによる育成など栽培方法の差異を学び飼料活用としての可能性を学びコスト削減、助成金に頼らない栽培の可能性を見出しました。また、地域のJAや生産者を繋げる事の課題整理を行い補助金政策に頼らない飼料用米作りを目指す取組みへ繋がりました。

- ④ 再生可能エネルギー推進に取り組めます。パルシステムが進める再生可能エネルギー連絡会と協力し産地の実践モデル情報を共有しながら理解を深めます。
  - 特定の産地において、事例研究を進めてきました。太陽光発電による電力確保を進める産地、糞尿を再利用するバイオの仕組みづくりを研究する産地などの事例を相互に共有してきました。
- ⑤ 放射能低減への取り組みを継続します。取り組み産地での交流と学習会を支援します。
  - 土壌の安定化と放射性物質の低減を目指し鶏糞堆肥による対策を行う米産地、腐植土としてフルボサンを投入する野菜産地などの取り組みがありました。
- ⑥ 有機農業全般を学び、有機の取り組みが今後の日本農業の中でどのように進むかを協議します。そこから生消協の立場で出きる行動を考えます。
  - 生消協から委員を派遣するパルシステム新農業委員会を通じ消費者と共に有機農業の現状について学ぶ機会を設けました。有機農作物における販売の難しさ、物流費や資材費用の高騰、世界的な異常気象による天候不順影響などを学び、利用推進の為、取り組みを持続する重要性を確認しました。



### Ⅲ 生産者・組合員・職員の交流の深化を具体的に進めます。

- ① 産地間の人的交流を推進します。ブロック会議、女性生産者交流会、青年農業者交流会など、消費者や会員生協で働く人たちの企画参加を強めます。
  - 3つのブロック会議を筆頭に青年農業者交流会、女性生産者交流会が今年も開催されました。全国から集まった生産者がそれぞれの企画テーマに沿って議論、交流し相互の信頼を強め新しい繋がりを生み出しました。
  - 公開確認会への参加も行い、生消協の立場から産地との関係も創りました。
  - 部会主催の企画へ消費者、会員生協役職員の参加枠を設け「生」と「消」の立場における役割の理解を進めるとともに交流の機会としました。
- ② 産直と生消協の価値を共有し合える取り組みを開催します。
  - 青果フォーラムでは3つのテーマに取り組めました。エコチャレンジ、品質向上、そして生消協の価値を再認識する機会として生産者同士での意見交換と議論を行いました。そして、活動の根幹となる部会が取り組み実施したことへ参加者から高い評価を得ています。

### Ⅳ 農畜産物への信頼を更に高めるために品質向上への取り組みを行います。

- ① 品質向上を継続的に進めます。課題について協議する場を作ります。

- 産地における取組みの継続がされてきました。
- 消費者運営委員会における年間活動計画として設定し、学習・視察などを得て消費者の立場からの考えと行動をまとめました。そして消費者の役割を考え行動する機会となりました。
- ② 農畜作物生産における技術交流を行ない消費向上へ繋がります。
- ③ 産地自主点検取組みを呼びかけ、組織レベル向上を目指します。
- 美味しさ、鮮度を重視した生産物を作り続ける事を更に強め、消費者の信頼を得、利用向上へと結びつける取組みを持続しています。

## V 組織について機能的、実践的な運営の取組を強めます。

- ① 機能的かつ効率的な運営を行います。その為に年度の活動が開始される前の準備を整えます。
  - 生産者運営委員会では運営方法の改善を図りました。具体的な成果としての検証は今後の運営スタイルと合わせ継続した形での評価が必要になります。
  - 消費者運営委員会は毎月開催のスタイルから月毎の整理を都度行い、次開催への課題整理を進めてきました。
- ② 生産者運営委員会と消費者運営委員会の年間活動計画を作り行動します。
  - 生産者運営委員会では部会長及び役員ブロックのみでの開催と幹事を含む開催を行い委員会として適切な運営方法を検討してきました。
- ③ 次世代生産者の活動を支援します。
  - 青年農業者交流会へのベテラン生産者の参加により、進む方向性や取組む実践に対して支援がされました。
- ④ 年間に行われる多くの活動を生消協内へ情報伝達していきます。日常的に繋がりを作り、産地、生産者からの情報も集中できる仕組みを様々な角度から追及します。



- フェイスブックの活用が少しずつ広がりを見せています。生消協の基幹会議や各種企画を伝えることでその場に参加できない方たちとの情報と認識の共有が進みつつあります。更に各産地の状況や取組みも伝えてもらえる為産地同士の繋がりを生み出しやすくさせています。

- ⑤ 活動と情報共有を基盤に生消協の魅力を伝え、新たな加入産地を増やします。

- 今年度の新規加入産地はありませんでした。

以上

2014年度 パルシステム生産者・消費者協議会 決算書

貸借対照表  
2014年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
普通預金	11,758,892	未払金	1,595,269
未収金	13,950	預り金	6,000
立替金	0	仮受金	0
		流動負債合計	1,601,269
流動資産合計	11,772,842	負債合計	1,601,269
		前期繰越金	8,617,599
		当期剰余金	1,553,974
		剰余金合計	10,171,573
資産合計	11,772,842	負債・剰余金合計	11,772,842

損益計算書

自2014年1月1日 至 2014年12月31日

(単位:円)

会費収入		20,404,000
収入計		20,404,000
委託費	3,600,000	
通信費	1,967,782	
旅費交通費	34,500	
幹事会費	3,184,824	
生産者運営委員	1,025,522	
消費者運営委員	2,444,887	
ブロック会議費	1,999,203	
部会活動補助費	1,245,318	
調査研究費	191,392	
会議費	1,596,473	
ホームページ運営費	0	
SNS開発	0	
事務所負担費	383,400	
会計委託費	191,700	
渉外費	719,629	
顧問費	60,000	
国際交流費	0	
消耗品費	73,404	
雑費	133,374	
支出計	18,851,408	
事業剰余金		1,552,592
雑収入	1,382	1,382
当期剰余金		1,553,974
前期繰越金		8,617,599
当次繰越金		10,171,573



2014年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算比較表

自 2014年 1月 1日 至 2014年 12月 31日

(単位:円)

勘定科目	当期予算額	当期実績額	予算増減額	予算対比	備考	
収入	会費収入(生産者)	10,000,000	11,204,000	1,204,000	112.0%	生産者 パルシステムグループ
	会費収入(パルグループ)	9,200,000	9,200,000	0	100.0%	
	合計	19,200,000	20,404,000	1,204,000	106.3%	
支出	委託費	3,600,000	3,600,000	0	100.0%	事務局人件費
	通信費	1,800,000	1,967,782	167,782	109.3%	カタログ発送費=1,700,000 その他通信費=100,000
	(カタログ発送費)	1,700,000	1,685,596	△ 14,404	99.2%	
	(その他通信費)	100,000	282,186	182,186	282.2%	
	旅費交通費	200,000	34,500	△ 165,500	17.3%	事務局旅費交通費
	幹事会費	3,500,000	3,184,824	△ 315,176	91.0%	交通費=2,400,000(会議開催回数増) 活動補助費=600,000 公開確認会派遣費=400,000 事務局会議費100,000
	(交通費)	2,400,000	2,292,000	△ 108,000	95.5%	
	(活動補助費)	600,000	763,090	163,090	127.2%	
	(公開確認会派遣)	400,000	129,734	△ 270,266	32.4%	
	(事務局会議費)	100,000	0	△ 100,000	0.0%	
	生産者運営委員会費	1,400,000	1,025,522	△ 374,478	73.3%	交通費=1200,000(6回) 活動補助費=200,000
	(交通費)	1,200,000	986,822	△ 213,178	82.2%	
	(活動補助費)	200,000	38,700	△ 161,300	19.4%	
	消費者運営委員会	2,700,000	2,444,887	△ 255,113	90.6%	青年農業者交流会=700,000 女性生産者交流会=700,000 消費者幹事交通費=1,200,000 その他活動費等=100,000
	(青年農業者交流会)	700,000	518,915	△ 181,085	74.1%	
	(女性生産者交流会)	700,000	545,149	△ 154,851	77.9%	
	(消費者幹事交通費)	1,200,000	1,354,785	154,785	112.9%	
	(活動補助費)	100,000	26,038	△ 73,962	26.0%	
	ブロック会議費	2,300,000	1,999,203	△ 300,797	86.9%	関東・中部=1,000,000 東北・北海道=700,000 関西・以西 =600,000
	(関東・中部)	1,000,000	993,343	△ 6,657	99.3%	
	(東北・北海道)	700,000	416,230	△ 283,770	59.5%	
	(関西・以西)	600,000	589,630	△ 10,370	98.3%	
	部会活動補助費	2,000,000	1,245,318	△ 754,682	62.3%	部会活動補助総額=1,400,000 産直講座交通費=600,000
	(部会活動補助)	1,400,000	608,724	△ 791,276	43.5%	
	(産直講座交通費)	600,000	636,594	36,594	106.1%	
	調査研究費	300,000	191,392	△ 108,608	63.8%	再生可能エネルギー、品質向上対策、組織スキル研修など。
	会議費	2,500,000	1,596,473	△ 903,527	63.9%	総会費用=2,000,000 農法研究会=500,000
	(総会費用)	2,000,000	1,246,748	△ 753,252	62.3%	
	(農法研究会)	500,000	349,725	△ 150,275	69.9%	
	ホームページ運営費	500,000	0	△ 500,000	0.0%	更新費用=150,000+メンテナンス
SNS開発	100,000	0	△ 100,000	0.0%	フェイスブック、ブログなどの情報の相互共有を強化	
事務所負担費	378,000	383,400	5,400	101.4%	半期毎の支払い	
会計委託費	189,000	191,700	2,700	101.4%	半期毎の支払い	
渉外費	1,000,000	719,629	△ 280,371	72.0%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1	
顧問費	300,000	60,000	△ 240,000	20.0%	会議、企画に応じ必要な方を依頼	
消耗品費	100,000	73,404	△ 26,596	73.4%	封筒作成、文具等	
雑費	100,000	133,374	33,374	133.4%	支払手数料、賛助金、団体会費等	
合計	22,967,000	18,851,408	△ 4,015,592	82.1%		
事業剰余金	△ 3,767,000	1,552,592	5,219,592	-41.2%		
雑収入	0	1,382	1,382	0.0%		
剰余金	△ 3,767,000	1,553,974	5,220,974	-41.3%		
前期繰越金	8,617,599	8,617,599	0	100.0%		
次期繰越金	4,850,599	10,171,573	5,320,974	209.7%	※2	

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 翌年の会費が入る前、1～3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

# 監査報告書

2015年1月21日

パルシステム生産者・消費者協議会

監事 峯本 正志

監事 石黒 登代子



次のように2014年度、監査を行いましたので下記にご報告申し上げます。

## 記

1. 監査日時 2015年1月21日(水) 13:00~15:00
2. 監査の場所 パルシステム連合会 2F 応接室
3. 監査立会人 パルシステム生産者・消費者協議会代表幹事 香取 政典  
パルシステム連合会経理部 山田 崇 山本 剛生  
生消協事務局 小林秀樹 大我晶子
4. 監査方法  
貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳、補助簿等の提出を求め、監査を行いました。
5. 監査意見  
会計収支は適正に処理されていることを認めます。
6. 附帯意見
  - ・生産者部会予算が適切且つ有効に使用されるよう望みます。
  - ・ブロック予算が適切且つ有効に使用されるよう望みます。
  - ・パルシステム生産者・消費者協議会の活動が後退すること無い様、適切な予算執行を基本に予算配分と進捗管理を進めるよう望みます。

以上

## 第2号議案

### 2015年度活動方針並びに予算案承認の件

#### 《2015年度 方針案》

I 「産地ビジョン」を作ります。これからの時代に必要な取組みを追求します。

- ① 今後の10年を見据える「産地ビジョン」作りを会員産地へ呼びかけます。
- ② 次代を担う人材育成に取組みます。5年後のあり方を検討し、具体的な計画を立てて行動します。
- ③ 産地間の技術交流を進めます。農業地域の重要性を発信継続し消費者へ伝わる活動を行います。
- ④ 農政改革について学び協議会としての意見をまとめます。また、TPPについては反対を貫きます。
- ⑤ 産直産地として地域との連携を強化し、地域づくりを推進します。
- ⑥ TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）反対を貫きます。

II 環境保全型農業を推進し取組みを広く伝えます。

- ① 新エコ基準の推進と定着をリードし産直産地全体で取組み課題整理を実施します。環境負荷低減に繋げる取組みを実践し消費者の理解を得るものとします。
- ② 産直の基本となる土作りを継続します。農薬、化学肥料削減を進めます。資源循環型農業を推し進め生物多様性に繋がめます。
- ③ 食料自給力向上の取組みを実践します。飼料における自給力向上の取組み支援を行います。米産地と畜産産地が連携できる仕組み作りについて部会を通じ考えます。
- ④ 放射能低減への取組みを継続します。
- ⑤ 有機農業を学びコア・フードの推進に協力する取組みを進めます。

III 美味しく価値ある農畜産物を作り、消費者へ提供する取組みを継続します。

- ① 品質向上の取組みを継続します。生産者と消費者が協力しながら個々の役割と課題について協議します。
- ② 物流の現状を調査し効率とコスト及び品質を重視した仕組み作りを研究します。

IV 生産者・組合員・職員の交流の新化を進めます。

- ① それぞれの会議において最適な運営スタイルを追求します。
- ② 生産者と消費者が協力し運営し両者の接点を更に推進します。
- ③ 会員に対して、生消協の活動を情報伝達する取組みを強化します。
- ④ 会員以外の産地に対して、加入の呼びかけを積極的に行います。
- ⑤ 協力会との交流を進めます。情報や取組み等を通じお互いの強みを活かします。

《2015年度予算案》

期間：2015年1月1日～2015年12月31日  
(単位：円)

パルシステム生産者・消費者協議会

勘定科目		2015年度予算	構成比	備考
収入	会費収入(生産者)	10,000,000	52.1%	
	会費収入(パルグループ)	9,200,000	47.9%	
	合計	19,200,000	100.0%	
支出	委託費	3,825,000	14.2%	事務局人件費
	通信費	2,200,000	8.2%	カタログ発送費=1,700,000円 その他通信費=500,000
	幹事会費	3,250,000	12.1%	交通費=2400,000(会議開催回数5を想定=400,000×5) + 400,000 (事務局会議時の交通費80,000×5) 活動補助費=750,000 公開確認会派遣費=0 事務局会議費100,000
	生産者運営委員会費	1,700,000	6.3%	交通費=1,500,000(会議開催回数) 活動補助費=200,000
	消費者運営委員会	2,900,000	10.8%	青年農業者交流会=700,000 女性生産者交流会=700,000 消費者幹事交通費=1,400,000 その他活動費等=100,000
	ブロック会議費	2,600,000	9.7%	関東・中部=1,000,000 東北・北海道=800,000 関西・以西=800,000
	部会活動補助費	2,200,000	8.2%	部会活動補助総額=1,400,000 産直講座交通費=800,000
	調査研究費	300,000	1.1%	品質向上対策、購読購入など。
	会議費	5,370,000	19.9%	総会費用=5,000,000 農法研究会=370,000
	ホームページ運営費	500,000	1.9%	リニューアル製作準備費用として
	事務所負担費	383,400	1.4%	半期毎の支払い
	会計委託費	191,700	0.7%	半期毎の支払い
	渉外費	1,000,000	3.7%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1
	アドバイザー経費	300,000	1.1%	会議、企画に応じ必要な方を依頼
	消耗品費	100,000	0.4%	封筒作成、文具等
	雑費	100,000	0.4%	支払手数料、賛助金、団体会費等
	合計	26,920,100		
剰余金	△ 7,720,100			
前期繰越金	10,171,573			
次期繰越金	2,451,473		※2	

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 翌年の会費が入る前、1～3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

## 第3号議案

### 役員改選の件

役員改選期にともない、役員推薦を行います。

併せて、ブロック役員承認をお願いします。

#### 【生産者幹事候補】

出身ブロック名	氏名	所属団体(所在地)
東北・北海道ブロック	戸澤 藤彦	花咲農園(秋田県)
東北・北海道ブロック	豊下 勝彦	ポークランドグループ(秋田県)
東北・北海道ブロック	齋藤 鈴男	JAみどりの(宮城県)
関東・中部ブロック	彦坂 誠	神奈川中央養鶏農業協同組合(神奈川県)
関東・中部ブロック	小川 保	JAつくば市谷田部(茨城県)
関東・中部ブロック	加瀬 千吏	サンドファーム旭(千葉県)
関東・中部ブロック	堀口 貞夫	サンファーム(長野県)
関東・中部ブロック	雨宮 政彦	山梨御坂くだもの倶楽部(山梨県)
関東・中部ブロック	矢内 克志	沃土会(埼玉県)
関西・以西ブロック	和田 宗隆	大紀コープファーム(奈良県)
関西・以西ブロック	波床 彰文	さんまる柑橘同志会(和歌山県)
関西・以西ブロック	大津 清次	無茶々園(愛媛県)
青年幹事	五十川 賢治	大牧農場(北海道)

#### 【消費者幹事候補】

所属団体	氏名
パルシステム東京	北村 和子
パルシステム神奈川ゆめコープ	上田 麻理子
パルシステム千葉	小田 育美
パルシステム埼玉	前田 多賀美
パルシステム茨城	宮本 静江
パルシステム山梨	梅原 隆子
パルシステム群馬	反町 幸代
パルシステム福島	高野 祐子
パルシステム静岡	上辻 あけみ
パルシステム連合会	原 秀一
パルシステム連合会	洪澤 温之
(株)ジーピーエス	野村 和夫
(株)パル・ミート	大泉 幸雄

### 【監事候補】

所属団体	氏名
JAふくおか八女	松崎 智明
パルシステム千葉	佐々木 博子

※会員生協役員改選に伴う消費者幹事変更がある場合は、規約第4条に従い変更する。

### 《ブロック役員》

#### ◆ 東北・北海道ブロック

ブロック長（幹事兼任）	五十川 賢治	大牧農場（北海道）
副ブロック長	鈴木 新	あいづグリーンネットワーク（福島県）
副ブロック長	高橋 直之	庄内協同ファーム（山形県）

#### ◆ 関東・中部ブロック

ブロック長（幹事兼任）	雨宮 政彦	山梨御坂くだもの倶楽部（山梨県）
副ブロック長	毛利 嘉宏	野菜くらぶ（群馬県）
副ブロック長	飯田 卓	佐原農産物供給センター（千葉）

#### ◆ 関西・以西ブロック

ブロック長（幹事兼任）	和田 宗隆	大紀コープファーム（奈良県）
副ブロック長	酒井 武信	長有研（長崎県）
副ブロック長	佐藤 隆	西日本有機農業生産協同組合 （やさか共同農場 島根県）

※各専門部会長については、各第1回部会で選任する。

## 第4号議案

### 議案議決効力発生の特

以上、本日ご承認いただいた議案は、本総会終了時点よりその効力が発生するものとします。なお、本旨に反しない範囲での字句修正は幹事会にご一任をお願いします。

---

## —資料—

---

- 2014年度 生消協の主な活動日誌
- 幹事会活動状況
- ブロック活動状況
- 生産者運営委員会活動状況
- 消費者運営委員会活動状況
- 「産直連続講座」活動状況
- 生消協組織規約・運営規程
- 代議員名簿



## 《2014年度 生消協 活動日誌 2014年3月～2015年2月》

月	開催日及び会議、企画名	備考
3月	6日 第25回通常総会 7日 県別交流会	日経ホール
4月	2日 東北・北海道ブロック役員会議 4日 関東・中部ブロック役員会議 7日 第1回消費者運営委員会 11日～12日 関西・以西ブロック役員会議 18日 第1回幹事会 18日 第1回生産者運営委員会 24日～25日 関東・中部ブロック会議 25日 第1回野菜部会	茨城県 谷田部市 34産地 123名参加
5月	1日 第2回消費者運営委員会	
6月	2日 第3回消費者運営委員会 21日～22日 第2回米部会	
7月	4日～5日 関西・以西ブロック会議 7日 第4回消費者運営委員会 8日 協会力会総 18日～19日 幹事合宿・第2回幹事会 30日～31日 東北・北海道ブロック会議	高知県 南国市 18産地 48名参加 香取代表幹事 加瀬幹事対応 福島県 北塩原村 22産地 105名参加
8月	4日 臨時消費者運営委員会 5日 JAいわて公開確認会 18日 第2回生産者運営委員会	監査人:高橋直之
9月	1日 第5回消費者運営委員会	
10月	3日 タカハシ養鶏公開確認会 6日 第6回消費者運営委員会 9日～10日 女性生産者交流会 16日 青果フォーラム 16日～17日 ノーザンび〜ふ産直協議会公開確認会	監査人:井村茂雄 25団体 88名参加 監査人:薄一郎
11月	4日 第7回消費者運営委員会 6日～7日 青年農業者交流会 13日～14日 無茶々園公開確認会 21日 第3回幹事会 21日 第3回生産者運営委員会 25日 産直ごはんの日	79名参加 監査人:松本英利
12月	1日 第8回消費者運営委員会 12日 第3回米部会	
1月	8日 第9回消費者運営委員会 公開確認会報告会 14日 農法研究会 14日 賀詞交歓会 15日 下期合同ブロック会議 15日 第4回生産者運営委員会	70産地 160名参加
2月	2日 第10回消費者運営委員会 6日 第4回幹事会 6日 第5回生産者運営委員会	

## 【幹事会】

日時	開催場所	議 題
4 月 18 日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パルシステム静岡消費者幹事交代の件</li> <li>・ 第 25 回通常総会・県別交流会報告並びに第 26 回通常総会概要の件</li> <li>・ 会員生協会費金額確定の件</li> <li>・ 部会活動予算確定の件</li> <li>・ 新農業委員会生消協幹事派遣要請の件</li> <li>・ 公開確認会幹事派遣の件</li> <li>・ アドバイザー契約の件</li> <li>・ 幹事役割分担について</li> <li>・ 2014 年度主要会議並びに行事日程確定の件</li> <li>・ 農法研究会会場の件</li> <li>・ ブロック会議進捗状況について</li> </ul>
7 月 18 日	五反田 ゆうぼうと会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2014 年度生産者団体会費請求の件</li> <li>・ キューバ 派遣承認について</li> <li>・ 第 26 回通常総会会場及び概要について</li> <li>・ 農法研究会について</li> <li>・ Facebook 立ち上げについて</li> </ul>
11 月 21 日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 22 回農法研究会テーマの</li> <li>・ 第 26 回通常総会・レセプション、および県別交流会について</li> <li>・ 消費者幹事派遣依頼および監査監事派遣依頼の件</li> <li>・ 生産者幹事定数枠確定の件</li> <li>・ 2014 年度振り返りと 2015 年度生消協活動方針（草案）の件</li> <li>・ ブロック振り分けについて</li> </ul>
2 月 6 日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2014 年度活動のまとめと決算報告の件</li> <li>・ 2015 年度生消協活動方針（案）の件</li> <li>・ 2015 年度予算（案）の件</li> <li>・ 通常総会役割分担の件</li> <li>・ 総会レセプション内容の件</li> <li>・ 幹事会、生産者運営委員会、消費者運営委員会及び各主要行事日程（案）確認の件</li> <li>・ パルシステム連合会との業務委託契約改定の件</li> </ul>

## 【監事会】

10月21日	東新宿事務所 2階会議室	2014年1月1日～6月30日までの 半期決算監査
2015年 1月21日	東新宿事務所 2階会議室	2014年1月1日～12月31日までの 年間決算監査

## 【上期ブロック会議】

日 時	ブロック	開催場所	概要
4月 24～25日	関東・ 中部	茨城県 谷田部市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 34団体123名参加。受入産地：JAつくば市谷田部</li> <li>・ 消費者幹事より会員生協活動報告</li> <li>・ 茨城県受け入れ産地からのプレゼンテーション</li> <li>・ 前参加者による課題別協議</li> <li>・ 原木椎茸栽培の学習と現地視察</li> </ul>
7月 30～31日	東北・ 北海道	福島県 北塩原村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 22団体105名参加 受け入れ産地：JA会津いいで</li> <li>・ 消費者幹事より会員生協活動報告</li> <li>・ 受け入れ産地よりプレゼンテーション</li> <li>・ 米生産活動と地域活動視察</li> </ul>
7月 4～5日	関西・ 以西	高知県 南国市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 18団体48名参加 受け入れ産地：高生連</li> <li>・ 消費者幹事より会員生協活動報告</li> <li>・ 受け入れ産地よりプレゼンテーション</li> <li>・ 有機農業の取組み学習</li> <li>・ 地域循環型農業視察</li> </ul>

## 【下期ブロック会議】

2015年 1月15日	ブロック 合同	東新宿事務所 2階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 70産地160名参加</li> <li>・ 2014年度の活動のまとめ</li> <li>・ 2015年度方針論議</li> <li>・ ブロック役員体制について</li> </ul>
----------------	------------	-----------------	---

## 【生産者運営委員会】

日 時	開催場所	概要
4 月 18 日	東新宿 事務所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品質向上プログラムについて</li> <li>・ 生産者部会、活動計画、予算請求について</li> <li>・ 第 5 回幹事会報告</li> <li>・ 第 6 回生産者運営委員会</li> <li>・ 臨時幹事会報告（雪害に関するお見舞いについて）</li> <li>・ 青果合同部会</li> <li>・ 2014 年度主要会議並びに行事日程確定の件</li> <li>・ 農法研究会会場の件</li> <li>・ ブロック会議進捗状況について</li> </ul>
8 月 18 日	東新宿 事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農法研究会テーマについて</li> <li>・ 青果フォーラムについて</li> <li>・ 品質向上の取組みについて</li> <li>・ 上半期ブロック会議報告（関東・中部ブロック会議、関西以西ブロック 会議報告、東北北海道ブロック会議進捗状況）</li> <li>・ 公開確認会について</li> <li>・ 青年農業者交流会および女性生産者交流会について</li> <li>・ 雪害カンパについて</li> <li>・ Facebook たちあげについて</li> </ul>
11 月 21 日	東新宿 事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農法研究会のテーマについて</li> <li>・ 2014 年度まとめ、2015 年度方針について</li> <li>・ 青年農業者交流会の件</li> <li>・ 女性生産者交流会の件</li> <li>・ 青果フォーラムについて</li> </ul>
2015 年 1 月 15 日	東新宿 事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2015 年度活動方針（案）について</li> <li>・ 生産者運営委員会 2015 年度年間活動計画案について</li> <li>・ 各部会の現状と課題整理</li> </ul>

## 【消費者運営委員会】

月 日	開催場所	議 題
4月7日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第10回消費者運営委員会報告</li> <li>・ 公総会・県別交流会報告</li> <li>・ 開確認会報告(大紀、村悟空、西武酪農)</li> <li>・ 今年度の進め方について</li> <li>・ 女性生産者交流会の件について</li> <li>・ 年間スケジュールの確認(消費者運営委員会開催日、各ブロック会議、公開確認会割り振り、女性生産者交流会など)</li> <li>・ 会員生協会費請求について</li> <li>・ 産直講座について</li> </ul>
5月1日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回幹事会報告</li> <li>・ 第1回生産者運営委員会報告</li> <li>・ 第1回消費者運営委員会報告</li> <li>・ 関東・中部ブロック会議報告</li> <li>・ 女性生産者交流会の件について</li> <li>・ 公開確認会担当割り振りについて</li> <li>・ 総会・県別交流会について</li> <li>・ 品質向上プログラムについて</li> </ul>
6月2日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性生産者交流会について</li> <li>・ 公開確認会担当割り振りについて</li> <li>・ 品質向上プログラムについて</li> </ul>
7月7日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性生産者交流会について</li> <li>・ 「産直ごはんの日」について</li> <li>・ 幹事合宿について</li> <li>・ 8月の産地見学について</li> <li>・ 東北北海道ブロック会議について</li> <li>・ 品質向上プログラムについて</li> </ul>
8月4日	JAつくば市 谷田部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨時消費者運営委員会開催</li> <li>・ 品質向上プログラムの生産現場視察</li> </ul>
9月1日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性生産者交流会について</li> <li>・ 「産直ごはんの日」について</li> <li>・ 青年農業者交流会について</li> <li>・ 2014年度まとめ、2015年度方針について</li> <li>・ 今後の役割分担について</li> <li>・ 品質向上プログラムについて</li> </ul>
10月6日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性生産者交流会について</li> <li>・ 「産直ごはんの日」について</li> <li>・ 青年農業者交流会について</li> <li>・ 2014年度まとめ、2015年度方針について</li> </ul>
11月4日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性生産者交流会について</li> <li>・ 「産直ごはんの日」について</li> <li>・ 青年農業者交流会について</li> <li>・ 2014年度まとめ、2015年度方針について</li> <li>・ 消費者幹事派遣依頼について</li> <li>・ 県別交流会について</li> </ul>

12月1日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 農法研究会役割分担について</li><li>・ 総会レセプションについて</li><li>・ 県別交流会について</li><li>・ 2015年度消費者運営委員会活動方針について</li></ul>
2015年 1月8日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 農法研究会役割分担について</li><li>・ 総会レセプションについて</li><li>・ 県別交流会について</li><li>・ 2015年度消費者運営委員会活動方針について</li></ul>
2月2日	東新宿 会議室	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生消協関連会議報告</li><li>・ 2015年度方針について</li><li>・ 総会レセプションについて</li></ul>

## 2014年度・産直連続講座開催一覧

	開催日	会員生協	開催産地名	講義内容	参加人数
1	6/4	パルシステム福島	菜の花エッグ	飼育法、こだわり、市販品との比較 ほんもの実感！の取り組み商品「産直たまごのふわふわスープ」の原料卵であることから詳しい説明を聞けました。	13
2	7/23	パルシステム埼玉	天童果実同志会	さくらんぼ、ラ・フランス等を生産する当該産地の取組みを学びました。さくらんぼの収穫に対する様々な苦勞や地域の課題をお聞きできました。	11
3	8/19	パルシステム神奈川	神奈川中央養鶏農業協同組合	体感型の学習会となったため子どもたちも集中して話を聞くことができました。学習会後は玉子サンドをつくり、子どもを中心とした質問タイムを設け交流を図りました。	24
4	8/27	パルシステム山梨	オーリア21	ご飯を美味しく感じるおかずを提供し、独自米「元気な稲穂あっこちゃん」の美味しさを実感すると共に産直の絆を深めました。	34
5	9/10	パルシステム福島	米沢郷牧場	現在の畜産の現状、地域との関わり、エサや飼育方で高い安全性と健康に配慮した米沢郷の取り組みをわかりやすくお話いただいた。鶏の解体の実演も含む学習と試食の充実した講座となった。	27
6	9/16	パルシステム東京	イシハラフーズ	便利なだけじゃない！ パルシステムの冷凍食品の秘密	23
7	9/19	パルシステム神奈川	米沢郷牧場	米沢郷牧場の設立背景や一般の養鶏との飼料・飼育密度・飼育期間の違いなどをわかりやすく説明いただきました。飼料米の銘柄や栽培方法などの詳細、遺伝子組換え飼料の影響についての質問が寄せられ価格のもつ意味を理解する学習会となりました。	35

8	9/27	パルシステム茨城	シーボーン昭徳	シーボーン昭徳、全漁連から講師を招き、魚のこと、漁のこと調理法についてお話ししていただきました。親子での調理実習を行い、子どもたちも「もっと魚が好きになった」など大変好評でした	27
9	10/7	パルシステム千葉	JA福岡八女	八女茶の栽培の話とおいしい入れ方講習会より八女の取り組みの理解を深める(料理教室形式)	17
10	10/21	パルシステム東京	奥中山高原乳業	やっぱり美味しい! 「いわて奥中山の低温殺菌牛乳」	24
11	10/22	パルシステム茨城	神奈川中央養鶏	実際に鶏に与えている飼料を持って来ていただき、説明していただきました。また、産直プロジェクトメンバーが、たまごの栄養について調べ発表しました。	37
12	10/22	パルシステム群馬	無茶々園	みかん作り・品質・取り組みについて、パワポと現物で学習会を開催。	20
13	10/22	パルシステム千葉	長有研	産地取り組み紹介と料理教室	16
14	11/12	パルシステム山梨	ナカショク	豚肉の基礎 パルシステムの豚肉について学びました。 豚の育て方 ナカショクさんのこだわり 豚肉しゃぶしゃぶでの市販の豚肉との食べ比べ 豚ロース肉の使い方◇だいでこログからレシピ紹介	25
15	11/17	パルシステム茨城	ナカショク	パルシステムの産直豚にいてお話ししていただきました。飼育方法について説明していただきました。	32
16	11/18	パルシステム東京	JA ぶくおか 八女	日本茶の美味しい入れ方講座	24
17	11/19	パルシステム茨城	バンラート農協	パシフィック・トレードジャパンからホームトンバナナの栽培の様子を映像を見ながらわかりやすく説明していただきました。また、私たちの手に届くまでを知ることが出来ました。	24



18	11/19	パルシステム福島	JAささかみ	パルシステムの産直の根底にある生きものに接する生産者のゆるぎない温かさ、心情が直に伝わるお話を聞いた。女性部たちとの新潟郷土料理「のっぺ汁」をご指導いただき、新米こしひかりのおにぎりをほう張りながらおいしくいただくことができました。	19
19	11/28	パルシステム群馬	庄内協同ファーム	もち米の栽培と取組みについてパワポで学習後、庄内風雑煮を作り交流	22
20	11/28	パルシステム埼玉	までっこ鶏	安心安全に対する取組や、パルミートより市販品との取組の違い、考え方などを聞きました。市販品との食べ比べの後、食育サポーターによる素材を活かしたワンプレートランチをいただきました。	17
21	12/2	パルシステム山梨	JAふくおか八女	八女茶について— 美味しいお茶の淹れ方講座（淹れ方、お茶の効能、美味しいお茶の見分け方、保存方法など）	32
22	12/5	パルシステム茨城	大牧農場	栽培のこだわりや美味しさの秘密についてお話していただきました。また、参加者全員でじゃがいももちを作り、試食を兼ねながら交流をしました。	29
23	12/12	パルシステム群馬	北浦軍鶏農場	産地の取り組みと商品説明後、お節料理を作り生産者と交流 (農)旭愛農生産組合と合同開催	21
24	12/12	パルシステム群馬	(農)旭愛農生産組合	産地の取り組みと商品説明後、お節料理を作り生産者と交流 北浦軍鶏農場と合同開催	20
25	12/12	パルシステム千葉	JAこまち	秋田こまちの栽培の話と秋田南部圏の取り組み紹介（料理教室形式）	17
26	12/16	パルシステム東京	JAやさと	パルシステムの産直たまごとなめらかプリン	23

27	12/17	パルシステム福島	佐原農産物供給センター	農めーくくらぶのお料理教室。新しい郡山センター自慢のクッキングスタジオにお招きできた。産地の採りたて新鮮根菜を使って大きな蓮根のピリ辛炒めやクリスマス風に粉砂糖を装飾したさつまいも入りチーズケーキが好評だった。	15
28	1/15	パルシステム群馬	茨城産直センター	産地の取り組みと商品説明・キムチ作り後、生産者と昼食交流	30
29	1/20	パルシステム千葉	タカハシ養鶏	産地取り組み紹介と料理教室	26
30	1/20	パルシステム東京	JA会津いいで	知ろう！食べよう！JA会津いいでのお米。	17
31	1/22	パルシステム千葉	ノーザンビーフ	産地取り組み紹介と料理教室	17
32	1/22	パルシステム埼玉	大牧農場	【職員向け】 北の大地での取り組みをご説明いただき、厳しさと苦勞が参加者に届いた学習会となりました。	14
33	1/23	パルシステム埼玉	大牧農場	【組合員向け】 北の大地での取り組みをご説明いただき、厳しさと苦勞が参加者に届いた学習会となりました。	13
34	2/5	パルシステム神奈川	佐原農産物供給センター	開催予定	開催予定
35	2/12	パルシステム神奈川	JAいわて花巻	開催予定	開催予定
36	2/16	パルシステム神奈川	ジョイファーム 小田原	開催予定	開催予定
37	2/25	パルシステム福島	無茶々園	無茶々園の概要・取り組み&ちりめんモンスターを探せ	開催予定
38	2/27	パルシステム埼玉	JAふくおか 八女	開催予定	開催予定

## 組 織 規 約

1990年設立総会 制定

2001年第12回総会 一部改訂

2006年第17回総会にて補強

2007年第18回総会 一部改訂

2011年第22回総会 一部改訂

2013年第24回総会 一部改定

この規約は、2013年3月7日より施行する

(名称)

第1条 この会は「パルシステム生産者・消費者協議会」と称する。

(目的)

第2条 この会は、パルシステム連合会とそれを構成する会員ならびに産直活動を進める生産者が、農業や食の問題を共通の課題とし、それぞれが生活者として相互連携し、それぞれに生きる「地域」を安全且つ豊かな「暮らしの場」とすることを目指し活動することを目的とする。

(構成)

第3条 この会は、パルシステムと産直活動を進めている生産団体・個人ならびに会員生協、連合会、(株)ジーピーエス、(株)パルミートをもって構成する。

(役員)

第4条 この会は、その運営および監査のため、幹事および監事若干名をおく。

### 【幹事】

幹事は生産者と消費者双方から、同人数を基本とする。その選任は、生産者は各ブロック、消費者は会員生協及びパルシステムの推薦によるものとし、総会で選任するものとする。但し、消費者幹事は会員生協の都合により幹事会の承認を得て交代できることとする。任期は2年とし、再選を妨げない。なお、役員の数については年度ごとに幹事会で決める。

### 【監事】

監事は毎運営年度2度以上、会の財産および幹事の運営執行状況を監査しなければならない。監事については生産者1名・消費者1名とする。

(会費)

第5条 会費は、原則として事業高や構成員の数で決定し、個人・団体の特別会費の納入を妨げない。また、その額は別途定める。

2 会員に特別の事情がある場合は、幹事会の承認を得て、会費納入を免除することができる。

(運営)

第6条 運営については、別途「運営規程」に定める。

2 運営年度は、2月1日より翌年1月末日までとし、毎年一回以上総会を開く。

(所在地及び事務局)

第7条 所在地及び事務局は、東京都内におく。

(改廃)

第8条 この規約の変更は、総会の決議によらなければならない。

## 運 営 規 程

### (総則)

#### 第1条

パルシステム生産者・消費協議会（以下、生消協）の運営規程は、加入者の意志と参加を前提として別紙の機構図にあるように会員相互の円滑な意志疎通と目的達成のために民主的な運営を保証するものである。

### (総会)

#### 第2条

生消協会員は、平等の権利を有し1会員1名の議決権は総会において保証され、総会は原則として年一回開催されるものとする。

### (幹事会)

#### 第3条

この会は次の内容で開催する。

1. 幹事会は会規約により選任された幹事で組織する。
2. 幹事会は生産者から代表幹事1名、消費者から副代表幹事1名を選任する。なお必要に応じて生産者から代表代行幹事1名を置くことができる。
3. 幹事会は代表幹事が召集する。
4. 幹事会は総会で決議した方針に基づき、日常の運営にあたる。
5. 原則として年4回の幹事会を開催する。別途必要に応じて臨時幹事会を開催することができる。

### (監事会)

#### 第4条

1. 監事は、監査について相互の連絡、協議、意見統制及び決定のために監事会を置く。
2. 監事は、代表監事1名を監事会において互選する。

### (生産者運営委員会)

#### 第5条

##### ■生産者運営委員会

1. 生産者幹事、ブロック役員、各部会長をもって組織する。
2. この会には委員長1名をおく。
3. 会の招集は委員長が行い、年3回以上の会議を開催するものとする。
4. 会の目的は生産者のネットワーク組織のまとめ役とし、生産者の自立的課題の整理をする。

##### ■地域ブロック

1. ブロックは、東北・北海道ブロック、関東・中部ブロック、関西・以西ブロックとする。
2. 各ブロックはブロック長・副ブロック長を選任する。但し兼任はできない。
3. 各ブロックは、年数回のブロック会議開催と、生産者同士の地域的つながりの強化と

連帯を図る。また個々の生産者同志の意見交流、情報交換を行い生産向上に生かすものとする。

#### ■専門部会

1. 米、野菜、果樹、畜産、鶏卵の5つを専門部会とする。
2. 各部会は互選により部会長1名を選任する。兼任はしない。必要に応じて副部会長をおくことができる。
3. 各部会ごとに年1～2回の部会を開催し、各品目ごとの課題解決に向けて学習、検討、実験などを行う。

#### ■その他

必要に応じて幹事会の基に特別プロジェクト又は委員会を設置することが出来る。

(消費者運営委員会)

#### 第6条

1. 消費者幹事をもって組織する。
2. この会は、組合員や会員生協の要望、意見他を生消協議会全体に反映させるためのまとめ役を行う。
3. 部会は必要に応じて開催するものとする。

(事務局)

#### 第7条

1. 生消協の運営を円滑に進めるために事務局を置く。各種企画は、その都度実行委員会を組織してこれにあたる事ができる。
2. 代表の下に事務局会議を設置する。
3. 事務局会議メンバーは、代表幹事が指名し、会の円滑運営を目的として開催する。

パルシステム生産者・消費者協議会

会費基準及び旅費・慶弔規程

(会費基準)

第1条

①生産者団体

1. 生産者会費は最低会費を1万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。
2. 生産者会費基準はパルシステム仕入れ金額とする。但しわかりにくい場合は産地と相談する。

②消費者団体

1. 当該年度の総会で決定した予算に沿って、算定方法の基準により生・消協幹事会で確定する。
2. 会員生協の会費の確定方法は、原則として以下とする。
  - (ア) 消費者側（会員生協・連合会・子会社）は、当該年度の生・消協予算の概ね半分を目安に、会費として拠出する。
  - (イ) 会員生協総額、連合会、子会社の拠出額については幹事会で決める。
  - (ウ) 会員生協会費は、パルシステム（無店舗事業に限定）の当該年度の3月末登録組合員の数値（Webサーバーから抽出）を用い、その数値に応じて会員生協ごとに按分して負担する。

(会費払込)

第2条

1. 生産者側団体の会費の払い込みは、当該年度の7月末までに各団体へ請求書を発行し、9月末日までに行うものとする。
2. 消費者側団体の会費の払い込みは、当該年度の4月15日までに各団体へ請求書を発行し、4月末日までに行うものとする。
3. 賛助会員の会費額は別途相談する。
4. 取引高比例会費基準は以下とする。

基準	会費額	基準	会費額
10億円超	250,000円	5千万円超	50,000円
5億円超	200,000円	3千万円超	30,000円
3億円超	150,000円	1千万円超	20,000円
1億円超	100,000円	1千万円以下	10,000円
7千万円超	70,000円		

(役員・事務局旅費支給規程)

### 第3条

1. 生消協幹事会・生産者運営委員会・消費者部会・事務局又は会として認められるその他会合への出席のための旅費の支給は本規定による。
2. 交通費はその都度申告しあらかじめ指定された口座に振り込む。
3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

#### (慶弔規程)

### 第4条

1. 生消協の関連団体の慶弔に関する事項は、この慶弔規定による。金額などの裁定は代表が決定する。
2. その他生消協関連団体の慶弔については、原則として生消協が会員を代表して行うものとする。
3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

#### (事務局)

### 第5条

1. 事務局の選任は幹事会が行う。
2. 雇用は連合会が行う。
3. その他必要事項については幹事会が裁定する。

第26回 通常総会代議員名簿

NO.	産地名	名前	NO.	産地名	名前
1	JA会津いいで	赤城 康浩	81	(株)長有研	酒井 武信
2	あいづグリーンネットワーク	鈴木 新	82	津軽みらい農業協同組合	阿保 直延
3	青木農園	青木 賢一	83	JAつくば市谷田部産直部会	飯泉 孝司
4	JA秋田ふるさと	佐々木 正博	84	(有)寺島農場	寺島 敏
5	旭愛農生産組合	齋藤 明美	85	天童果実同志会	片桐 完一
6	あじたま販売株式会社	新井 由美子	86	東光寺生協葡萄協力会	堀内 吉男
7	アップルファームさみず	山下 勲夫	87	常盤村養鶏農業協同組合	山内 正光
8	有倉きのこ園	石澤 正喜	88	有限会社栃木元気会	青柳 宏幸
9	アルプス農業協同組合	高橋 芳孝	89	とちのみ会	上野 延久
10	インハラフーズ株式会社	吉川 幸一	90	有限会社トップリバー	嶋崎 秀樹
11	有限会社伊豆鶏業	佐藤 俊夫	91	利根川生産者グループ	倉林 勝
12	茨城産直センター	坂入 一己	92	農事組合法人ながさき南部精算組合	小玉 光博
13	JAいわて花巻	菊池 健	93	株式会社ナカシヨク	本間 基司
14	魚沼みなみ農業協同組合	高橋 宏	94	有限会社なかむら農園	仲村 知也
15	うもれ木の会	佐藤 恭輔	95	株式会社菜の花エッグ	梅原 正一
16	農事法人エコーたまつくり	成島 智美	96	にいがた南蒲農業協同組合	平沢 佐幸栄
17	えちご上越農業協同組合	小島 康彦	97	西宇和果実出荷組合	土居 敏矢
18	榎本牧場(マルハニチロ畜産)	栗玉 旨宏	98	西日本有機農生産組合	佐藤 大輔
19	株式会社 エプロン	前田 政快	99	有限会社日本の稲作を守る会	稲葉 勇美子
20	遠州中央農業協同組合	鈴木 信吾	100	ノーザンび〜ふ産直協議会	宮北 輝
21	大潟村産直会オーリア21	工藤 猛	101	白州たまご生産組合	大橋 幸夫
22	有限会社大牧農場	櫻木 聖一	102	白州森と水の里センター	内藤 光
23	雄勝りんご生産者同志会	小野田 政広	103	有限会社花咲農園	宮崎 靖弘
24	小川和男養鶏場	小川 和男	104	パンラート農協	山本 寛幸
25	奥中山高原農協乳業株式会社	目時 正	105	東宇和農業協同組合	大塚 英浩
26	おても会	梅野 久吉	106	広島県果実農業協同組合連合会	及川 正明
27	音更町農業協同組合	宮村 徳親	107	フォレストファーム	中垣 勝弘
28	株式会社オルター・トレード・ジャパン	松本 敦	108	JAふくおか八女	星野 大輔
29	(株)花見園	大須賀 木	109	有限会社富良野青果センター	村上 洋巨
30	鹿児島くみあい食品株式会社	稲葉 幹男	110	フレッシュダイレクト	前田 将和
31	鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社	中馬 公弘	111	有限会社フレンズファーム	入来院 裕子
32	勝沼平有機果実組合	渡辺 猛	112	ポーランドグループ	浅水 正彦
33	JAかつの	阿部 康明	113	農事組合法人北杜ベジファーム	新田 穰
34	神奈川中央養鶏農業協同組合	安藤 正昭	114	ほとけの里産直部会	芹川 豪
35	北浦しゃも農場	下河辺 昭二	115	農事組合法人増野	大野 恒由
36	北蒲みなみ農業協同組合	井上 淳一	116	までっこチキン生産者連絡協議会	大石 昌広
37	JA紀南	森 悦子	117	有限会社真南風	夏目 ちえ
38	紀ノ川農業協同組合	松本 和広	118	株式会社丸公	大類 明訓
39	有限会社九州青果物流通センター	岩山 重徳	119	株式会社マルタ	佐伯 昌彦
40	峡南鶏友会	市川 勝巳	120	有限会社マルハ園芸	原 広宣
41	有機農法ギルド	五十野 和樹	121	三浦半島EM研究会	畑 卓雄
42	草枕グループ	右田 忠利	122	有限会社三皿園	井尻 弘
43	久望農園	久保田 哲朗	123	みちのく野菜倶楽部	佐藤 泉
44	くらぶち草の会	佐藤 茂	124	みどりの農業協同組合	林 利弘
45	有限会社黒富士農場	向山 茂徳	125	水俣・不知火ネットワーク	松本 英利
46	有限会社謙信の郷	金谷 武志	126	南伊豆太陽苑生産者グループ	大輪 誠二
47	有限会社高生連	松林 直行	127	南埼玉産直ネットワーク	山崎 幸男
48	(有)ゴールド農園	石岡 繁行	128	株式会社 地域法人無茶々園	宇都宮 俊文
49	JAこしみず・健土塾	竹内 峰夫	129	株式会社野菜くらぶ	河原 勉
50	JAこまち	井上 善蔵	130	やさと農業協同組合	岡田 文雄
51	農事組合法人埼玉県産直協同	曾根 陽一	131	株式会社八街産直会	齊藤 照夫
52	佐久浅間農業協同組合	中里 勝彦	132	やはた会	長沢 富士雄
53	佐久ゆうきの会	木曾 郁雄	133	JA山形おきたま	飯澤 一雄
54	ささかみ農業協同組合	江口 聡	134	山形コープ豚産直協議会	国分 政光
55	農事組合法人佐原農産物供給センター	伊東 幸男	135	山梨御坂うまいもの倶楽部	雨宮 政彦
56	有限会社サンドファーム旭	金谷 雅幸	136	有機栽培あゆみの会	丸山 訓
57	サンファーム	下川 千鶴子	137	財団法人夢産地とさやま開発公社	安藤 保彦
58	さんまる相模同志会	中筋 隆清	138	沃土会	丸山 幸生
59	三里塚農法の会	柳川 秀夫	139	株式会社米沢郷牧場	伊藤 孝孝
60	澁谷養鶏	澁谷 朗	140	農事組合法人と郷園	那須 政彦
61	士別市多寄有機農業研究会	山本 栄一	141	パルシステム東京	野々山 理恵子
62	農事組合法人土別農園	古市 光敬	142	パルシステム神奈川ゆめコープ	吉中 由紀
63	(有)島原自然塾	酒井 澄晴	143	パルシステム千葉	佐々木 博子
64	(株)JALみずサービス	小川 通博	144	パルシステム埼玉	田原 けい子
65	首都圏とんかつ協議会	北見 則弘	145	パルシステム茨城	小泉 智恵子
66	(有)ジョイファーム小田原	長谷川 功	146	パルシステム山梨	白川 恵子
67	常総センター	柴沼 文夫	147	パルシステム福島	和田 佳代子
68	JA常総ひかり産直研究会	中島 純夫	148	パルシステム群馬	田中 三千夏
69	農事組合法人庄内協同ファーム	小野寺 喜作	149	パルシステム静岡	上田 由紀
70	JA庄内たがわ	大瀧 慶一	150	パルシステム生活協同組合連合会	山本 伸司
71	特定非営利活動法人食農ネットささかみ	石塚 美津夫	151	株式会社パル・ミート	江川 淳
72	すずき牧場	薄 一郎	152	株式会社ジーピーエス	工藤 友明
73	ゼスプリンター・ナショナルジャパン(株)	藤川 宗一	代議員数 152名		
74	農事組合法人村梧空	長谷川 秀雄	《賛助会員》 ※議決権がないため、代議員の選出はありません		
75	(株)第一清瀬出荷組合	大川 利継	153	大隈地区養まん漁業協同組合	
76	有限会社大紀コープファーム	王隠堂 正悟哉	154	恩納村漁協協同組合	
77	有限会社タカハン養鶏場	高橋 光正	155	かねも	
78	株式会社ちば風土の会	寺内 金一	156	釧路市漁協協同組合	
79	JAちばみどり海上野菜産直部	浪川 誠司	157	シーボーン昭徳	
80	(有)ちば緑耕舎	大野 久男	158	全国漁業協同組合連合会	
			159	長崎県漁業協同組合連合会	
			160	野付漁業協同組合	